

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070702685
法人名	(株)プロデュース
事業所名	グループホーム きらめき (ユニット名 2階・3階 )
所在地	福岡県北九州市八幡西区本城東1丁目11-27
自己評価作成日	平成30年11月20

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅東1-1-16第2高田ビル2階
訪問調査日	平成30年12月17日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「明るい挨拶・元気な会社」を経営理念に掲げ、一日一日その瞬間を大切に、利用者様に笑顔をお届けしています。残された人生を、毎日笑って暮らせるように、スタッフ一丸となって認知症高齢者の利用者様の支援をさせて頂いております。20代の若いスタッフから70代のスタッフまで、スタッフの年齢層の幅が広く、こじんまりとした家庭的な雰囲気の中で専門の介護スタッフとともに生活して頂いております。心穏やかな日々をお過ごししていただく「もう一つの我が家」です。入浴や散髪など生活に必要なサービスはもちろん、季節や気候に応じたレクリエーションの機会も多く設けています。協力機関と連携し、健康・服薬管理や緊急時対応も安心です。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

近くには大きな市営団地やお店、戸建住宅があり、鉄骨造り3階建ての2・3階部分に事業所がある。開設時より14年が経過し、建物内部は少し古くはなっているものの、どこか懐かしい落ち着いた雰囲気を感じられる。勤務年数の長い職員も多く、利用者との関係も密である。地域の高齢者がパート勤務で掃除や調理等を担当し、活躍の場が提供されている。理念に沿ったスローガンを掲げ、職員は利用者との関わりの中で、尊厳を守り、利用者一人ひとりがその人らしい生活が送れるように、明るくやさしい言葉かけなどを心掛けながら日々ケアを実践している。ケアプランセンターが併設されており、地域の方からの相談を受けたりしている。地域福祉の拠点として更に地域に根差した事業所となることが期待される事業所である。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会議などの時に必ず理念唱和をし、職員それぞれが理解を深めて全職員が理念を共有しながら実践できるよう努めている。理念を具体化するスローガンをグループホーム内に提示している。	法人の経営理念を事業所理念とし、理念に基づきスローガンを各ユニット毎に作成している。職員は利用者の尊厳を守り、利用者一人ひとりがその人らしく生活できるように態度や声掛けなどにも配慮しながら支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域で行われる夏祭りやイベントやふれあい昼食交流会には職員が利用者様とともに参加させて頂いており、地域の方々と関係を深めるようにしている。	地域で行われる夏祭りには手作りカレーなどを持ち寄り参加している。町内会に加入しており、地域の清掃には職員の一人が事業所を代表して参加したり、事業所で行う餅つき大会には地域の方も参加したりして交流の機会となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月「きらめきだより」を発行して、ご家族に送付するとともに地域の方々にも見て頂くようにしている。認知症の勉強会を行うなど事業所への理解を深めてもらうようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営状況などの報告及び話し合いをすることにもご家族や地域の方々の協力を得て防火・防災訓練なども行っている。認知症の方への対応方法などについてもお伝えし、ご意見をお聞きして改善するようにしている。	自治会長や消防署員、地域包括職員、家族、事業所職員などの参加がある。防災ガイドブックを使用して地域の危険箇所を確認したり、事業所の状況を伝えている。報告の中で、転倒が続いたことなどを報告することで、利用者に対する見守り強化や転倒予防のために廊下歩行をするなどサービス向上に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政主催の研修会に参加したり行政担当者との情報交換を行っている。運営推進会議には地域包括支援センターの担当者にも参加させて頂いており、協力関係を築くようにしている。	市からの研修の案内で参加したり、家族からの問合せ等について相談することもあり、意見やアドバイスをもらったりしている。書類作成のことも判りにくい場合には、事業所の事務担当が市に連絡を取るなど、協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービスにおける禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間帯は玄関を施錠しているが、日中は玄関を開放している。身体拘束廃止委員会を設置しており、身体拘束についての外部講師による研修や社内勉強会を開催している。	職員は身体拘束となる具体的な行為については理解している。利用者が出て行く気配を感じた場合には、声掛けしながら一緒に歩いていくなど寄り添いながら支援している。夜間7時頃から朝7時位まで玄関を施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止委員会による勉強会や職員会議での議題に挙げるなどしており、互いに意識して注意し合うようにしている。勤務時間などで職員が無理にならないように気を付けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在利用し毎月、関わらせて頂いている。利用されている方も毎月の来客の意識があり楽しみにされている。	利用者1名が成年後見制度を利用している。グループホーム協議会での研修に職員、管理者が参加している。運営会議やユニット会議で研修内容について報告を行い、資料も閲覧できるようにしている。事業所内でも研修の機会があり、管理者、職員は学ぶ事が出来ている。パンフレットなどを準備する意向である	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際は本人およびご家族に見学して頂いたうえで説明し、理解および納得したうえで契約して頂いている。センター方式を利用して過去の生活状況などをできる限り聞き取るようにし、ご意見およびご要望をお聞きしている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議などでご家族の意見や要望をお聞きするほか、個別的に利用者本人やご家族の意見や要望をお聞きするよういており、改善すべきところはすぐに改善するよう努めている。	利用者が家族へ話した内容について、実情把握のため家族が訪問したことがある。利用者の現状を説明し、話をすることで理解が得られた事例があり、家族とはよく話が出来関係築いている。家族などの意見や要望は電話や訪問時に聞いたりしている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	面談やミーティング、報告書などで意見、要望、提案を聞き、改善の必要性のあるところから改善している。意見の出しやすい社風づくりを目指したい。	管理者には意見が言い易く、職員が個別に意見・提案を行い運営に反映させている。事例として、普段の様子と違うように見受けた利用者について、管理者を通じて医療と連携をとり、疾患が見つかり入院治療に至ったり、水分補給について提案し、大きめのコップに変更したことなどがある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年度の方針や目標を全体会議で提案し、職員の責任分担を明確にしている。月1回の管理者会議を開催し、その時点での管理者や職員の状況などを把握するようにしている。今後も職場環境や労働条件の向上に努めていく。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮し生き活きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員には70代の高齢者や男女がおり、個々の能力を發揮しながら互いに協力し合っている。職員同士の良いところを認め合い、償い合って利用者に対応できるよう配慮している。	現在20歳代から70歳代の職員がいる。採用については代表が面接し、適性かどうかの判断をしている。休みは取り易く、資格取得のための研修に受講料の支給もある。料理や壁面飾りの作品作りなど職員の能力が活かされ發揮出来ている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	身体拘束や虐待、認知症など人権に関する研修や勉強会を通じ、相手の人権を認め、その人らしさを受け入れることの必要性を学んでいる。利用者の人権を尊重し、謙虚と感謝の気持ちでケアに取り組むようにしている。	3ヶ月に一度研修したり、職員間で勉強会を設けている。職員は利用者の尊厳を守ることを念頭に日々のケアを行っている。言葉かけなど不適切な対応を見受けた場合には、職員間でも注意したり、管理者が個別にアドバイスをしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部講師を招いての介護研修を実施している他、センター方式や認知症についての勉強会を行っており、職員の能力を高めるようにしている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	徘徊ネットワークやグループホームの協議会、介護に関するNPOや協同組合などに参加し、同業者などとの交流および情報交換をしている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に施設家庭に訪問して人の困りごとや不安、要望をお聞きした上で安心して頂けるよう努めている。センター方式の活用が、信頼関係の構築に役立っている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族の困りごとや不安、要望をお聞きし、コミュニケーションを取るようになっている。センター方式を活用するよう心がけている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に把握できた本人やご家族の不安を解消し、その要望に応えるようにしている。センター方式によって得られた情報を活用してケアするよう努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のできること苦手なことを把握すように努め、できることはご自身で行って頂くようになっている。感謝の言葉を忘れず、共に喜び合える信頼関係を築けるよう努めている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えている関係を築いている	毎月の「きらめきだより」や電話、面談などを通して近況報告を行っており、ご家族様の相談事などについても親身に応じている。運営推進会議などの行事にも、ご家族に参加して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣地のスーパーマーケットやコンビニ、公園などへ出かけたり、地域の夏祭りなどにも参加して頂いている。昔顔なじみの知人などが面会に来られることもあり、懇談会の場を提供している。	友人・知人の訪問があり、その際、お茶を出すなど歓迎している。利用者は家族と一緒に美容室や墓参りに出かけたり、自宅に泊まることもある。利用者の外出時の準備や、目の不自由な利用者が電話を掛ける時の支援等を積極的に行い、馴染みの関係継続に努めている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が共有スペースで一緒に過ごせるようにしており、カラオケなどのレクリエーションを行うことにより互いの親睦を深められるようにしている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された利用者のご家族様が行事などの機会に訪ねられて来られることもあり、必要に応じて電話などによる相談にも応じている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者本人の望む暮らしに添えるように希望や意向は必ずお聞きしている。意思疎通の難しい利用者については、ご家族様に情報を提供して頂き、本人が望まれるであろう生活に近づけるようにしている。	日頃からコミュニケーションをとる中で言葉や表情、散歩に行く時などの会話から本人の思いなどを把握している。家族の訪問時にも聞き取るようにしており、内容についてはユニット会議等で職員が共有している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際にも、ご家族の協力を頂いてセンター方式を利用し、本人の生活歴などの情報を収集している。入居後も本人やご家族からの情報を取り入れながら、本人の意向を把握して共有するようにしている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の心身の状況を観察、把握し本人が自分らしく過ごせるように努めている。毎月のカンファレンスで現在の状況把握を行うようにし、支援の在り方を検討している。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3か月毎に計画作成担当者も含めた職員によるカンファレンスを行って計画に反映している。担当者制によりモニタリングを行い、会議で意見を出し合ってケア方針を検討した上で実践することを心掛けている。	月に1回ずつ行われているユニット会議と全体会議の機会に計画の見直しも実施している。6ヶ月に1回、再アセスメントをするようにしており、看護師や往診に来る医師などにも服薬管理等について意見をもらい計画に反映している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	変化はご家族へ書面や電話で報告し相談の後、計画に反映させケアを行っている。ご家族にいつでも記録を見て頂くよう声掛けをし、また、掲示している。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々のご家族の状況やご本人の状況に合わせてサービスを行っている。外出を好まれる利用者様には、できるだけ外出の機会を作るように努力している。ご本人の希望に添える支援を行っている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のふれあい昼食会に参加させて頂いている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隔週往診に来て頂き健康チェックができている。必要に応じて緊急往診や緊急対応の指示、協力を受けている。	これまでのかかりつけ医の受診を継続してもらっており、皮膚科等の他科受診同行も職員が対応している。事業所の協力医による往診や薬剤師の訪問、訪問歯科、更に24時間対応の訪問看護もあり適切な医療を受けられる体制が整っている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に2日訪問看護師が来られ健康チェックできている。変化のある方は申し送りを徹底し支援している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時ホームでも生活情報を提供し、病状が安定したら早期退院をお願いしている。入院中、退院時のカンファレンスにご家族と参加し情報交換を行っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族、医師と密に情報交換し、状態の変化が有るときはその都度意向を確認し、満足して頂ける終末期を迎えられるよう支援している。	これまでに看取りの経験があり、医療機関とも連携をとりながら終末期の支援をしている。家族の意向にも対応できるように泊まり込みも可能である。重度化した場合の対応についてはその都度検討していく意向である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	起こりうる事故や急変時は再度職員に伝え対応の手順を再確認している。AEDを設置後消防士を読んで救命救急の講義、実務を受けた。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防の方に指導いただき火災訓練を行っている。地域に消防団の方が住んでいるので、将来は地域の方を巻き込んで一緒に消防訓練も行っていきたい。	消防署の指導による訓練等を実施したり、大きな地図をみながらの避難訓練等もしている。直近では、水害の想定で2階の利用者を3階に移動する避難訓練を実施している。災害時対応マニュアルやスプリンクラー設備もある。備蓄品の用意もあるが十分とは言い難い。	訓練等は実施できているところなので、有事の際のライフラインの断絶等も想定した食料品や飲料水等の備蓄内容について早めに準備することが望まれる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々に合わせた声掛けをしている。赤ちゃん言葉や上からの命令的な言葉は絶対に使わないように指導している。	職員間で共有しておきたい利用者の支援内容や個人情報等を、ほかの人が聞いてもわかるような大きな声でやり取りをしないように気を付けている。生活歴や排泄面についての話題は特に気を付けている。お便り作成等で顔写真を掲載するような時も使用許諾の配慮はなされている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者の行動などでシグナルを見落とさないように努めている。おやつ時の飲み物や行事の参加や外出も自己決定できるように声掛けをしている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	居室にて読書を好まれる方、廊下ソファでおしゃべりをしたい方など個々その時の状態に合わせて一人一人のスペースを大事にして、その人らしい暮らしを大切に支援するように努めている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の希望に合わせて行っている。外出時などは一緒に着る物を選び決めている。理、美容院に行き		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	会話の中で食べたいものなどがあるときには、献立に反映している。個々のその時の状況に合わせて、出来ることを共に行っている。下膳、お盆ふきなどを一緒に楽しく行っている。	配食サービスの活用をしながら、温めや盛り付けは事業所で行い、調理については地域の方に入ってもらい、汁物と小鉢1品をプラスして提供している。心身の状況により職員と一緒に、台ふきや下膳をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日食事量や水分摂取量をチェックし状態を把握し対応している。自力での摂取を支援している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けし、個々に応じた口腔ケア、見守りを行っている。困難なご利用者様にはスタッフが介助を行っている。歯科往診、必要時、義歯のケアを行っている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にてパターンを把握しトイレで排泄が出来るように援助している。歩行困難なご利用者様には声掛け誘導にて介助を行っている。自尊心を損なわないよう、さりげなく援助している。	一人ずつの排泄パターンを把握しながら、パット交換やトイレへの誘導をしている。できるだけトイレでの排泄ができるように支援を心がけており、オムツ着用から紙パンツ対応へと変更した事例もある。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量の把握や運動と毎朝のバナナ入りヨーグルトなど工夫し自然排便出来るように援助している。医師の指示のもと下剤内服の調整管理を行っている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	1対1の援助でゆっくりと入浴して頂いている。臨機応変に希望のあるときはたいおうしている。	毎日、お湯の準備をしており、週に2回から3回は入浴できるようにしている。希望により、肌にあわせたシャンプーやボディソープの用意も対応している。受診や催し事等への参加もできるだけ対応するため午前中の入浴時間となっている。入浴を拒まれる場合は、対応する職員や日にちを変えたり、清拭をしたりしている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	毎日の睡眠時間や状態を把握し対応している。病状や年齢、習慣によって日中でもゆっくり休んで頂いている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一覧表や薬手帳で確認できるようにしている。新しく処方された薬があるときは必ず申し送っている。スタッフ全員、お一人お一人の内服状態などの理解と確認に努めている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	月に1回の音楽療法や塗り絵、歌、おやつ、飲み物の選択などご本人の嗜好を考慮して支援している。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホーム周辺を散歩にお連れしたりまた、近くのコンビニに職員と一緒に買い物に行っている。	日常的な外出としては、天候により近くの公園に散歩に行ったり、最寄りのコンビニエンスストアに買い物に行ったりしている。車いす対応の利用者が多いため、季節の花見等、全員での外出は近年はできていない。同じ法人のデイサービスと合同での外出等も今後検討している。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物の時にお渡しする事もある。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人とご家族の希望が有れば、いつでも電話できる体制はある。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	庭がなくまた、玄関も狭いため、リビングなどに季節を感じられるように花や飾りを工夫し取り入れている。季節などに応じて室内の飾りつけなど変え喜んでいただいている。室内の温度・湿度、換気に気を付けている。	共用の食堂兼居間は適度な明るさで落ち着いた雰囲気がある。居室へ続く廊下もあわせて季節に応じた壁面飾りを施してにぎやかさも感じることができる。2階と3階で構造に違いはあるが、浴室もトイレも整頓が行き届いている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下やリビングにソファを設置し、自由に過ごせられる空間がある。気の合ったご利用者様同士、一緒に座られ話をされる事もある。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの筆筒や鏡台、写真を持ってこられ、ご本人が心地よく過ごせるよう努めている。	ベッド、クローゼット、洗面台は備え付けのものとなっている。使いなじみのある家具類や仏壇、季節によっては加湿器等も家族が持ち込み、本人にとって居心地よく過ごせる環境となるよう配慮がなされている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々に合わせその時その時の状況を把握し過剰な介護はせず支援している。リスクはあるができたことの発見やそっと見守る事で出来るようになるよう支援している。自分の部屋とわかる配慮に心掛けている。		